

第1回 沖縄科学技術大学院大学学園の今後の在り方に関する検討会 議事要旨

1. 日時：令和7年3月27日（木）10:00～11:30
2. 場所：中央合同庁舎8号館8階818会議室
3. 出席者
 - (1) 構成員
大栗委員、栗井委員、塩見委員、高橋委員、塚本委員、益委員
 - (2) 内閣府
齊藤沖縄振興局長、中嶋審議官、藤吉審議官、藤嶋総務課長、田中室長
 - (3) OIST (オブザーバー)
マルキデス理事長兼学長、加藤副理事長兼事務局長
4. 議事要旨

検討会の開催に当たり鳩山内閣府副大臣が「OIST設立の目的である世界最高水準の教育研究機関になるために、長期的な視点において、将来の在り方について、ぜひご議論いただきたい」と述べた。

議事1 座長の選出について（資料1）

委員互選により、益委員が座長に選出された。

議事2 座長代理の指名について（資料1）

座長指名により、塩見委員が座長代理に指名された。

議事3 検討会運営要領の決定について（資料3）

議事について原則公開で実施すること等について了承された。

議事4 今後の検討事項・論点について（資料5、6、7）

事務局より資料について説明がされた後、委員から主に以下のような意見があり、検討の進め方等について了承された。

1 今後の検討会議論に向けて

- 理事会（学校法人）が定めた構想や方針とその方針をもとに大学が取り組んでいる計画について、現状と合わせて示してもらい議論したい。
- 組織や研究環境、インフラ等について、OISTの特異性を説明してほしい。一人のPI（教

員) に対してどのようなユニット体制が一般的か等の比較がしたい。

- 「ベスト・イン・ザ・ワールド」を達成するためにどのくらいの資金が必要なのを見通しているのか、どのように予算の戦略や配分の仕方を考えているのか説明してほしい。
- 子弟教育に関し、優秀な人材を逃がさないためにはどうすべきだと考えているのか説明してほしい。
- 10年後見直しの提言のもと、この5年間でどのように改善されたのか見たい。
- 10年後見直しの提言にあった「規模の拡充」がどうあるべきか整理したい。
- 財政基盤の在り方については、OISTではどういう特徴を持ってやっているのかを説明してもらい、それが国民に対して説明できる財政基盤であるかということ整理したい。
- 沖縄及び近隣におけるアカデミア同士の連携も議論の対象に入れていいのではないかと。

2 各評価項目について

(組織運営、広報)

- 大学の規模に見合った施設が準備されているのかを示してほしい。
- 広報全体のストラテジーを説明してほしい。また、広報に対するリアクションはどうだったかについても把握したい。

(教育研究)

- 研究について大学としての全体のインパクトを図る指標を示してほしい。
- 分野の数、分野ごとの規模(PI数等)の推移を示してほしい。
- どの分野を選んで投資していくか、見直しの方法を含めた今後5年、10年のストラテジーを示してほしい。
- 修了にどれくらいの年限が平均的にかかっているか知りたい。
- 卒業生やポスドクが、世界の大学は研究機関等でどのような活躍をしているか示してほしい。
- 外部資金獲得時の間接経費の取扱いの特徴を知りたい。
- 経済安全保障の観点での研究について相応の留意が必要。

(財務)

- 資金獲得に対する考え方を議論したい。

(沖縄振興、産学連携)

- 沖縄に限らず、海外や国内の大学、研究所、企業とどのような連携を行っているのかを説明してほしい。

以上